



小川 純文 議員
(政清会)



この夏の4度の台風の上陸と通過に伴う被害は、近年経験したことのないほどの甚大なものであった。被災された方々には、速やかな復興に向けた行政の迅速な対応が求められている。

町民の生命、身体、財産を災害から守り、安心かつ安全な住民生活を維持することができるようにするためには、日ごろからの対策に加えて、災害発生時の庁内の対応について、職員個々の意識共有を図ることが大切であると痛切に感じたところである。

そのような備えをすることにより、地域において安心・安全に暮らすことにつながり、まさに「幕別町に住んでいてよかった」と実感されるものだと認識している。地球温暖化が叫ばれる中、今後もし起りうるであろう自然災害への備えを確立していくことは大変重要であると考え、以下の点について伺う。

(1) 今回の台風災害発生時の初動を含めた行政組織の体制のあり方に

問 災害発生時の役場組織態勢の検証は

答 もっと早く災害対策本部を立ち上げるべきだった。今後、慎重に検証し対応策をまとめる。

ついでに検証結果は。

(2) 検証結果を踏まえた今後の組織体制のあり方とその実現に向けた方策は。

町長 (1) (2) 8月30日から9月1日にかけての災害対応では、情報収集・管理の一元化と避難所の運営について課題が残ったものと考えている。

本部における情報の共有等管理が不十分であったことから、大部屋に対策本部を設置し、組織全体で情報を共有化できる環境をつくるとともに、定期的に本部設置訓練を行うなど個々の職員が非常時をシミュレーションした備えを心がけるよう促していきたい。

また、常日頃から、本部組織の各対策部や各班の役割を確認し、訓練することが重要であり、特に、初動の重要性に鑑み、「災害時初動対応マニュアル」を早急に整備し、職員が迅速に行動できるよう定期的な訓練を実施していきたい。

避難所については、駐車場の整



台風による猿別市街の被害状況

理や物資の配給などをスムーズに行えなかったこと、避難者への災害情報の提供が不十分であったことなど、課題の残る結果となった。今後は、避難所開設時は必ず専任の情報連絡担当者置き、本部との連絡調整を行い、避難者に必要な情報を適切に提供する仕組みを確立していきたい。

さらには、避難所運営マニュアルの見直しや避難所運営訓練を定期的に実施するなど、職員の初動

体制を構築していく。

また、地域における「共助」の重要性を再認識したところであり、自主防災組織の活動支援や未整備地区の組織化への働きかけを一層強化していく。

なお、11月30日に開催された管内防災担当会議において、被災自治体の災害対応におけるさまざまな課題が抽出されたことを受け、今後、連絡調整会議を設置して、災害対応の検証を進めるなど、課題解決に向けての取組を行うこととなっており、本町の災害対策の見直しに生かしていく。

再質問 (1) 災害対策本部について、情報を集中させる必要があったのでは。

(2) 被災者に寄り添った対応と対策はどうだったか。

答 (1) 徐々に水量が増え、大部屋に移る機会を逸した。初めから大部屋に職員が詰めて、情報を共有しながら全員が一つの認識の中で行動するように努めていきたい。

(2) 国の被災者に対する補助の上乗せや融資に対する支援、利子補給などを提案してきた。国の制度の隙間を埋めるといのが町の役割であり、町ができることについては、前向きに検討していきたい。